

栗山と福祉 3 年生 認知症サポーター養成ステップアップ講座

北海道介護福祉学校
教員 鈴木 敦子

【授業の目的】

高校生の皆さんが「認知症のある人」や「その疑いのある人」に対して『自分にできる行動』を理解し、実際に行動できるようになる。

認知症の高齢者数

- ▶ 日本の総人口は**1億2,336万人**〈2025年1月現在〉 ※内閣府推計
日本の総人口に占める65歳以上の高齢者 日本の高齢化率は約30%（推計）
世界最高水準です。

2022年 ●認知症高齢者数（65歳以上）約443万人（有病率12.3%）

8人に1人が認知症の人

●軽度認知障害（MCI）約558万人（有病率15.5%）

●認知症＋MCI＝約1,001万人）有病率：約27.8～28%

※3～4人に1人が認知症や認知機能の低下が見られる

- ▶ 2025年 認知症高齢者数471.6万人 **有病率12.9%** **MCIを含めると20.6%**
世界の認知症有病率（平均約7～8%）

栗山町の認知症高齢者数

▶ **65歳以上の高齢者人口**：4,410人（栗山町） **高齢化率**：41.75人

※日本の高齢化率29.3% 栗山町は高齢化率が高い！

例えば認知症有病率（全国平均）：12.9%に当てはめ計算すると・・・。

栗山町高齢者のうち認知症がある人の割合は全国平均と同じく12.3%

65歳以上の高齢者約8人に1人が認知症

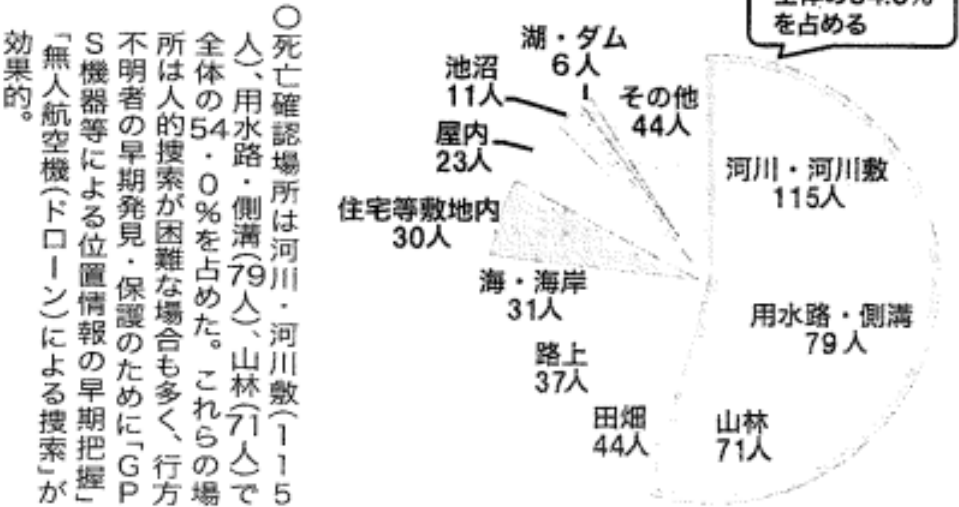
認知症行方不明者数

R7年6月介護新聞

▶2024年・警察庁まとめ◀



▼死亡確認場所



「この場面、どう関わる？」
～認知症の人を地域で支える高校生として～

質問 1 あなたならどうする？

通学中に困っている高齢の方を見かけて
「認知症かも？」と思ったとき、声をかける？
黙って見守る？

1. 認知症の主な症状

中核症状（脳の特定の部位の機能低下により現れる症状）

中核症状	特徴	例
記憶障害	さっきのことを忘れる／新しいことを覚えられない	何度も同じ話をする
見当識障害	日付、時間、人、場所が分からない	「今日は何日？」が答えられない
判断力の低下	状況を理解や整理し、適切に判断ができない	お金が払えない、道に迷う
実行機能障害	買い物や料理の手順が分からない	調理が途中で止まる

行動・心理症状（BPSD）の例

行動・心理症状 (BPSD)	特徴（例）	よくある理由や背景
妄想	「財布を盗まれた」など思い込みが強い	記憶の抜けた部分を「誰かのせい」にしてしまう
徘徊	家の外に出て歩き回る、迷子になる	「目的がある移動（迎えに行く）」の場合も多い
幻視	「虫が見える」「誰かがいる」や錯視など	脳の混乱、視覚や聴覚の情報処理のズレ
不安・焦燥	落ち着かずそわそわ、イライラする	「ここはどこ？」「帰らなきゃ」など混乱
介護拒否	お風呂・着替えを嫌がる	恥ずかしい、不安、痛み、理解できないなど
暴言・暴力	大声で怒る、手を出す	自分を守るための反応、感情のコントロール低下
うつ状態	元気がなくなる、無表情になる	自信の喪失、環境への戸惑い

～グループワーク～
皆さんで考えてみましょう

事例 1

放課後のスーパーで出会った高齢女性

私が放課後、スーパーで買い物をしていると、80代くらいの女性Aさんが、買い物かごに同じ商品をいくつも入れてうろうろしているのに気づいた。レジに並ばず、入り口から出ようとしているのを見た。

店員も声をかけようとするが、戸惑っている様子。

～グループで考えてみよう～

- 1) Aさんは、今「何に困っている」と思いますか？
- 2) Aさんは、今どんな気持ちでいるか、想像してみてください。
- 3) あなたはどんな行動をしますか？

【考えられる認知症の症状と気持ち】

▶ 想定される認知症の症状

①中核症状：見当識障害（時間・場所・状況が分からない）
や記憶障害（何を買ったか忘れて同じ商品をいくつもかごに入れている）

②行動・心理症状（BPSD）：不安・混乱・焦燥感

●**気持ち**：「私、何してたんだっけ？」
「ちゃんと買い物できてないかも」
「え～っと～？？？」

自分にもできる言葉かけ・対応

- ▶ まずは声をかけて**安心感を与える**（大きな声を出さない）
 - ・「何かお手伝いしましょうか？」
 - ・「一緒にお店の人に聞いてみましょうか？」
 - ・「一緒に探しましょうか？」などと**共に考える姿勢を示す**
- ▶ 周囲の大人（スーパーの店員や交番）に**さりげなく協力を依頼する。**
- ▶ それ、さっきも入れてましたよ」と正すのではなく、**否定せず、焦らせない対応**

事例 1

栗山駅の改札近くで立ちすくむ男性

日曜日の昼、私が電車で出かけた帰り、駅の改札近くで70代くらいの男性Bさんが、切符を握ったまま立ちすくんでいるのを見かけた。

駅員に話しかけられても、「家に帰れない」とつぶやくばかりで、名前や行き先もあいまい。

～グループで考えてみよう～

- 1) Bさんは、今どんなことに戸惑っているのでしょうか？
- 2) どんな不安や気持ちを抱えていそうですか？
- 3) あなたはどんな行動をとりますか？

【考えられる認知症の症状と気持ち】

▶ 想定される認知症の症状

①中核症状➡場所の見当識障害（今自分がどこにいないのか分からない）、記憶障害（家への帰り方が分からない）を買ったか忘れて同じ商品をいくつもかごに入れている）

②行動・心理症状（BPSD）の可能性：不安・焦燥・怒りや混乱

●**気持ち**：「ここはどこ？」「どうやって帰るんだ？」
「どうしよう...誰もいない...」

自分にもできる言葉がけ・対応

▶ 安心感を与える対応

- ・「どうしましたか？」と優しい声かけ
- ・「一緒に駅員さんの所に行ってみましょう」と**見守りと行動のサポートをする**
- ・「ご家族に連絡できますか？」ではなく、「お名前はわかりますか？」など**ゆっくり情報を聞き出す工夫**

「自分たちにもできる支援って何だろう？」

まとめ 認知症の人を地域で支えるサポーターとして

👉 「皆さんが明日からできること」

- 気づく 「困っているサイン」を見逃さない
- 声をかける 「何かお困りですか？」と落ち着いた声で
- つなぐ 店員・交番・大人に助けを求める
- 見守る 無理に誘導せず、そばで安心感を与える
- 関わる 地域のイベントやボランティア、認知症カフェに参加（認知症の理解を深める）